

張り子の教材化

谷野正敏

How to Use Papier-Mâché as a Teaching Material

Masatoshi YANO

はじめに

日本人の生活は、和紙の文化であった。軽量・強靱・柔軟等の特質が、単に書写用紙とされる以外に衣食住の全領域に深く拘わってきた。この優れた性能を持つ和紙を主材料とする張り子の玩具が、全国で製作され、玩具として愛用される以外に、縁起物に用いる地域もある。

この研究は、張り子の伝統的技法と作品を、今日から解釈して、図画工作・絵画製作の教材化を計るべく、技法を中心とした実践と考察の記録である。

1. 張り子玩具の史的考察

張り子とは、はりぬきとも言い、木型に紙を張り重ね、芯を抜きとった造形品である。

室町末期の文人¹⁾中川喜雲の著書案内者卷三(1662)に、江州木の下地蔵祭の表題で次の記述がある。古しへより験福者の地蔵なりとて、敦賀、正田の諸人までも、ここに参詣することおびただし。これをつるでに日中の市をたてつつ、帛布の筵等はいふに及ばず、諸方の商人立つどひて、おきあがり小法師、土人形はり貫²⁾の野郎に、お山人形³⁾までありといふ。(原文のまま)

この記録により、約380年前には張り子人形が製作されていることになるが、製作の事実がはっきりするのは、江戸時代以降である。

愛知県豊川市の作家内藤武人氏の初代助十は、張り子の木型を携えて、三河の国吉田(現豊橋市)から豊川に移住し、農業のかたわら張り子を製作したという。文化8年頃のことである。また福島県郡山市三春張り子の7代目橋本廣司氏の2代廣右衛門は、文化元年の生まれである。初代廣右衛門の生年不詳のため、文化初年には既に製作されたと見てよい。他にも類例があり、張り子は文化文政の頃から盛んに製作されたというのが通説である。

張り子製作には、武士との拘わりが深い。前述の内藤助十は、吉田藩士であった。また三春藩主秋田家4代の倩季候は、歌舞伎を愛好され、江戸から勝れた人形師を招き、高柴部落⁴⁾に屋敷を与え武士待遇をして、各種の人形を作らせたという。

2. 張り子の特色

紙は和紙の反故紙、糊は小麦粉、原型の材は居住地周辺の雑木と粘土、これ等はすべて身近にある。加えて高度な技術を必要としないから、一般庶民の工芸であった。しかし結果として庶民とはなったが、創作の中心的役割は武士であった。手すさびとしての張り子は、作風が素朴直截である。

表 種類 — 豊橋市・豊川市・名古屋市・浜松市 —
面 (半立体)

品名	大小別種類数	備考	品名	大小別種類数	備考	品名	大小別種類数	備考
おかめ	17	招福	恵比須	10	商売繁昌	桃太郎	2	子供の玩具
天狗	17	除災	大黒	10	商売繁昌	雉	1	子供の玩具
鬼	17	除災	ひょっとこ	9		高砂じいさん	1	子供の玩具
鐘馗	16	除災	黒鬼	3	除災	加藤清正	1	子供の玩具
狐	10	厄除け開運	猿	2	子供の玩具	合計 14	116	

立 体

達磨	11	商売繁昌・開運	越後獅子	3		兎ころがし	1	子供の玩具
犬	6	幼児発育	狐パクパク	2	厄除け開運	犬ころがし	1	子供の玩具
春駒	6	子供の玩具	鯛	2		たぬきころがし	1	子供の玩具
獅子	5	子供の玩具	観音	1		猫	1	
亀	5	子供の玩具	象車	1	子供の玩具	柿乗り猿	1	子供の玩具
天神	4	家庭行事	鯛車	1	子供の玩具	鳥神楽	1	子供の玩具
虎	3		福助夫婦	1		合計 20	57	

次に地域の習慣，生活意識，信仰等が地方色濃いデザインに昇華した。例えば伝染病の流行，飢餓からの脱出を願う赤色の多い犬張子や鬼の面・天狗の面がそれである。鐘馗の面は畏怖の相貌の典型で，天災よけの呪いとされる。

3. 作品の種類 (表参照)

作品の種類にはかなりの地域差がある。三春張子には廃絶したものが多いが，舞姿・かつこ・子曳き・和藤内・琵琶法師等いずれも歌舞伎に影響された人形が多い。同じ福島県でも，会津若松では赤べこ⁵⁾が著名である。

以下の記述は愛知県内と静岡県浜松市の張り子について調査結果をまとめたものである。近県では三重県にも作家がいると聞くが作品が少ないので未調査である。

愛知県豊川市・新城市・宝飯郡一宮町とその周辺には，魔除けや縁起物として，毎年祭禮の日に各種の面を買い求め，自宅の土間や居間の鴨居に掛けておく習慣がある。張り子の種類は家庭によって異なるが，鐘馗・おかめ・天狗・鬼は単品，恵比須と大黒は1対とする家が多い。どの家も同じ大きさで同じ種類の面を，ほぼ年代順に掲げており，最も多い家では，豊川市の農業 T 家にある71個，大部分が恵比須と大黒で，おかめと天狗が少しあった。昭和23年頃からのものという。しかし，掛け切れなくて神社におさめたり，改築で処分する家も多い。

三河一宮砥鹿神社⁶⁾の例祭当日には，張り子専門の店が毎年10数軒境内に軒を並べる。まことに壮観そのもの，また宝飯郡小坂井町菟足神社⁷⁾の風祭り，豊川稲荷，豊橋神明社の鬼祭り等にも出店され，各種の張り子作品が販売される。

名古屋市守山区竜泉寺の本尊は，馬頭観音で馬の首を張り子で作り，竹串にさしたものと，竹笛になっているものの2種がある。串馬といい1月の初観音と節分に境内で売られる。また太い竹の先に馬の首と手綱をつけ，下方に木製の車輪をつけた昔そのままの竹馬もある。立派な遊具である。

表の作品は、すべて現在も製作されるものであるが、残念なことに子供向けの作品であっても、愛玩されていない。中には機構上注目すべき張り子もあるから、愛玩される方法を研究するとよい。三河郷土玩具の狐パクパクというのは、狐の下顎が動くように作られ、うしろから指を入れて動かすとパクパクと軽快な音がする。この音は張り子特有なものであるから、楽器として器楽合奏等に利用するとどんな結果になるだろうか。竜泉寺の笛馬は、セルロイドの薄片を使って音を出す。澄んだ金属的な音色が独特で、楽器として効果があると思われる。

浜松張子の柿乗り猿は、猿の首が動く。鳥神楽は逆立ちした角兵衛獅子の頭に鳥の羽根がつけられ、その頭部が動く。この動くしくみを作ることが楽しい学習になる。

兎ころがし、犬ころがし、たぬきころがしは動物の左右に大きな車輪が2個ついていて、傾斜をつけた板上を自由にころがす玩具である。材料の項で記述する胡粉は、張り子に重みを加えるから動く機能を助ける塗料である。兎ころがしは全身胡粉の白を基調とし、車輪を赤、車軸を黄色、目のふちと髭を金色仕上げとした美しいもので、赤い目がひととき印象的である。

達磨は全国に分布するが、愛知県と浜松市で11種類、特に愛知県は3cmの豆達磨から70cmの大達磨まで9種類を製作する。高さ8cmのおころりんは、赤ちゃんを背負う子守り姿に見立てられるところから子育ての縁起物とされる。相貌に実感があり、省略された手法にも、よく和服姿を象徴していて、豊川市の文化財に指定されている。

少年時代に男の子の節句があり、天神を祭壇に祭った記憶がある。それは、練物か土粘土か材料が明らかでないが、比較的重量があり、破損したものを、地の神様におさめたことを覚えている。今回の調査で張り子の天神が作られていることを知った。しかし、ほとんど売れないから注文があれば作製すると聞いた。豊橋市では練物風の赤天神を今も作っているとの記録⁹⁾があるが、家庭の年中行事が次第に消え去るのは、日本的心情の消滅につながりはしないか。

4. 張り子の材料とその技法

(1) 紙

○反故紙（この場合は和紙の反故紙）

反古紙とも書く。和綴じ本、判取帳などの古紙である。純和紙で使い古された柔軟性と強度は、張り子用紙として抜群である。張り子の発生はこの紙あってのことと思われる。最近入手が不可能に近く、作品の一部に使用されることが多い。破ってみると、繊維が極めて長く、ねっとりした破れかたをするから見分けは容易である。

○茶 塵

主として襖の下張り用とされる。茶褐色の稍もろいが、水分を容易に吸収し、柔軟性のある和紙系の紙である。反故紙ほど繊維は長くないが、張り子用として、諸条件を満たしてくれる。和紙専門店・表具店で求める。

○筋 紙（すじがみ）

張り子の紙は強過ぎると、芯にする型の凹凸になじまないの、適度の強度ともろさを条件とする。胡粉を使うとなれば、更に水分を適度に吸収することも重要である。しかも一般の愛玩用とするには、低価格で販売するという条件、即ち材料代の節約という問題もある。これらの条件を満たす目的で漉かれた張り子専用紙である。かす紙とも言われ、紙の全面に灰茶色の細片が漉きこまれている。これは原木の表皮である。色は茶褐色。3種類あるが手漉きのため、紙質に多少の相違がある。3種類とも使用したが、厚い薄いの差があるだけで、張り子に使うと適不適は認められなかった。後述する合せ紙を作る時は、重ねる枚数を加減

して行なう。教材とするには、予算上の問題があるからすすめられないが、教材研究としては是非使ってみてほしい紙である。和紙製造の店で求める。

○色ロール紙

色ロールのひわ（ひわ色）というある会社（メーカー）の紙を研究として使用した。黄色味のある緑色をした軟質紙で手軽な包装用として使われる。お好み焼、大判焼の包装用によく見かける。張り子に使うに十分な性質があり、価格も紙類中最も低廉であると思われる。洋紙専門店で求める。

○新聞紙

張り子に使うにしようという紙を手中でかたく丸めて、パッと手を広げてみる。そのままであればまず使える。少しでも反発して皺になった紙が広がるようなら、使いにくいと思えばよい。新聞紙はそのような紙である。型に凹凸、特にこまかい凹凸がある時は、しばらくおさえている。その要領をのみこめば、十分使える紙である。また水分を瞬間的に通さないから、糊をつけて張る時間に、稍ゆとりを持たせたい。幼児や小学校児童の工作では、作業時間に幅を考えるから、適当な紙と言えるかもしれない。教材としては主材料となる紙である。

○ざら紙

学校にはなじみの深い紙である。最近紙質がよくなり、新聞紙同様、あるいはそれ以上に使いにくいかもしれない。薄くて軟らかいものを選んで使用する。

○習字用紙

胡粉を使わない仕上げには、是非ほしい紙である。薄く通水性があり、水にもろいから注意して張り重ねる。張る紙に糊をつけることをさけ、張られるほうに糊をつけ紙を置く。次に糊をつけた指でこすると紙が破れない。白く仕上げるには、3枚は重ねたい。

○障子紙ほか

障子紙は手にはいり易い和紙系の紙である。張り子の条件を満たし、しかも白く仕上がるから胡粉省略の技法には都合がよい。問題は高価なこと。人工繊維による機械漉きの模様紙がある。障子紙とされるが、驚いたことには水中に入れても、まったく破れなかったし、皺もよらなかつた。張り子には使えないと思われる。

奉書紙というのによく似た版画用紙が文房具店にある。張り重ねる前に、適当にもみほぐし、引きさいて使う。ほぐし過ぎるともろくなり、分解してバラバラの繊維となる。引きさくのは、継ぎめをかくす為である。最後の仕上げに使うと胡粉がわりとなる。

電話帳の紙は薄くて良い紙であると思った。古い電話帳の紙は、まことに使いよくて大発見をしたと喜んだが、最近のものは、紙質がよくなりしなやかでなくなった。たまたまビニール袋につめてみた。1枚ずつ丸めると大きさが適当で、これはよいと思った。60個以上をつめたが、新聞紙ならこの大きさに切るだけでも相当な労力であるから、思わぬ発見であった。

○合せ紙の技法

合せ紙というのは、2枚又はそれ以上の紙を張り合せて乾燥したものをいう。使用時に水に浸せばもとどおりになるから、張り子作家が常用する方法である。めんどうな張り重ねを省略するから極めて能率的である。継ぎめを注意しないと、その部分がふくれる。稍技術を要する方法である。

合せ紙を作るには、まず平らな板に数か所軽く糊を引き、1枚めを置く。紙を固定する為である。次に糊刷毛にたっぷり糊を含ませ、紙の中央から放射状に刷毛を動かす。糊が裏面まで浸透するのを見とどけて、2枚めの紙を重ね、上記のことを反復する。紙間に空気を残さ

ぬこと。目的の重ねが終れば、洗濯バサミで針金につるし乾燥させる。小品で5枚、中品で7枚～8枚、大作では10枚以上の合せ紙を使用する。新聞紙は合せ紙に向かないが、作る型の大きさによっては、2枚合せをしたものが使える。習字用紙はもろくて合せ紙を作りにくい。筋紙はさすが専用紙だけあって、触感・重量感・強度・色調・柔軟性ともにすぐれ、合せ紙作りも楽しい作業である。紙自体に野趣あふれる張り子玩具作りにふさわしい。

合せ紙の技法は、高度であるから教材としては、やはり1枚ずつ張り重ねるという方法をとりたい。張り子本来の意義が理解できると思われる。教材研究とするか、又は発展教材とするなら結構である。

(2) 胡粉と膠

胡粉は、日本画に用いられ、牡蠣の貝殻を焼いて粉碎した白色粉である。成分は炭酸カルシウム。むろんこれも張り子に使ってよいが、高価なため張り子には白質石灰岩を粉碎した別種を用いる。便宜上胡粉と称するが、商品名は炭酸カルシウム、正しくは重質炭酸カルシウム（略して重炭）と言いい成分も炭酸カルシウムである。類品にタルク（滑石の粉末）とマイカ（雲母の粉末）がある。購入先は工業用各種製粉メーカー又は張り子原材料店。

膠は獣類の骨・皮・腱・腸などを水で煮た液を乾かし固めたものである。ゼラチンを主成分とし、透明又は半透明で弾力性がありあめ色である。三千本膠は1梱包を3000本としたことからの名称である。他に板膠・瓦板等があるが品質差はない。菌こぼれをおこさないから、昔から建具、家具等の接着剤に愛用され、また日本画の顔料や胡粉をとくに利用される。

○胡粉の使用法

直径20cmの立方体、2回塗り60名分として、胡粉（炭酸カルシウム）4kg、三千本膠0.4kg、ぬるま湯4ℓを用意する。

- ①三千本膠を布片に包み（飛散防止）容器にはいる長さに折る。
- ②小鍋に4ℓのぬるま湯の一部を入れ、その中に膠を浸す。最底1時間、長く置くに従い糊状に溶ける。
- ③別の大型鍋に水を張り、その中に上記の鍋を浮かせて加熱する。（湯煎）^{ゆせん}あらかじめ両者の鍋の取手を針金で結束して鍋の動揺を防ぐ。膠は溶解後も保温すること。
- ④膠が完全に溶解するのを確認してから、別の容器に胡粉の全量を入れ、用意した湯のうちの2ℓを加えて攪拌する。
- ⑤できた泥状の白い溶液の中へ木工用ボンドを少量加える。
- ⑥残りの湯全量を加えて攪拌する。
- ⑦この中へ③の膠液を加えて完成。

この塗料はその日のうちに使用する。冷えるに従いゼリー状にかたまり始めるから手早く使用する。しかし加熱すれば、再度泥状化するから再び使える。また長く保管したい時は冷蔵庫に入れる。

胡粉がけの目的は、強度を高める、白い下地を作る、こまかい凹凸を消去するの3点である。従って陶器の釉薬がけの要領がよく、塗るよりもかけるつもりがよい。刷毛にたっぷり含ませて、上部からたらすような塗りかたをする。塗り終れば天日に干す。晴天であれば白の発色がよい。底部から竹串にさして、土中に突き立てたり、藁束を作ってさしておく等、接触面を極度に少なくする配慮もほしい。よく乾燥したら2回めを塗る。乾燥が十分でないと亀裂を生じ易い。要領がよければ2回塗りで終るが、普通は3回塗る。

(3) 糊

張り子の糊は、紙を重ね張りする固着性と、型から抜きとる剝離性の二面を具備しなくてはならない。小麦粉はその性質があり、昔から障子の張り替えに使われた。市販品に強力と薄力があり、強力小麦粉がよいという説もあるが、薄力小麦粉で十分かと思う。

布海苔は干満線間の岩石に群落をつくるマフノリ・フクロフノリ・ハナフノリ（フノリ科）の紅藻を水にさらし、天日で干したものである。市販品は約30cm×27cmの薄板状をしており、反物の洗い張り、建築中の柱を保護するための紙張り、また昔は女子の髪洗いにも使われたという。カンバノリ（俗称）という海藻を使う作家がいる。目的は製作費をやすくする為であると聞いた。張り子玩具の庶民的性格を裏付ける注目したい話である。

○小麦粉糊の作り方と使用法

張り重ねに使用する糊は、小麦粉の6～7倍の水を使用する。まず小麦粉に少量水を加え、泡立器で攪拌する。小麦粉の粒が消えたら更に加水して攪拌する。続いて残余の水を全部加え弱火にかけて攪拌を続ける。やがて半透明となり、噴きつつから消火する。

小麦粉は腐敗が早く、夏季は冷暗所又は冷蔵庫に保管する。高温の室内では、翌日には早くも黴を生じ粘着力が低下する。冬期は表面に被膜ができるが、支障はない。小麦粉糊のぬめりは独特なもので、フィンガーペンティングの体験ともなるから、手の甲全体を使いその感触を楽しませたい。安全教育上防腐剤は使わぬこと。芯を抜き取ってから切り口の接合には、3倍程度の水で煮た小麦粉糊を使う。

○その他の接着剤

部品の接着には市販の木工用ボンド・セメダイン等を使う。張り子は接合部が平面でないことが多いので、トイレットペーパーに少量の不易糊を加え練り合せたものを、すきまにつめるとよい。この紙粘土は適度な堅さがあり効果的である。

(4) 着色剤

スオウ（蘇枋）⁹⁾は古くから材が染料として輸入され、紅色素染料として用いられた。ハナズホウ（マメ科）¹⁰⁾花蘇方の意味で花が紅紫色で、あたかもスオウの木の染料の赤色に似ているのでこの名がついた。それほどに特色のある発色をする。

アイ（タデアイ タデ科）畠に植えられる1年生草本で、原産地は多分印度支那半島の南部。葉を藍色の染料として用いる。アイは青の転語。一説に青い汁が居るからとも言われる。

ムラサキ（ムラサキ科）日本・満州・中国・アムールに広く分布する多年草。昔から根を紫色の染料として用い、栽培されることもある。以上は草木染の染料で張り子にも使われたが、現在使う作家はほとんどなくなった。

エナメルは耐久性があり、鮮明な発色が一般に好まれる。外来の塗料であるから多少の異和感があるけれども、生活様式の洋風化が進む現在、やむをえないかと思う。

東北で食紅を使う所がある。このユニークな発想に興味を感じエナメルと比較した。エナメルは朱紅色、パーミリオン系の稍不透明色、食紅は深紅色で透明、パープル系の魅惑的な赤である。

墨汁は黒の発色、これに書道用の墨をすって混合すると、また別の趣があるようで、調合の程度方法は作家の苦心するところである。

オーラミンはホスゲンから作る黄色染料である。個性的な黄橙色を発色し、張り子に愛用される。

紅殻はベンガラともいい、酸化第二鉄（鉄さび）である。耐熱耐水性がよく、京都方面の民家の塗装に使われる。赤味の強い茶褐色を発色する。

群青は岩群青の略で、青金石という鉱物から作る青色の顔料である。18世紀ヨーロッパで合成に成功し、現在はこの人造石を原料とする。

教材としての主材料は、水彩絵の具とポスターカラーである。水彩絵の具は、白を混合し、不透明として使えば、無用な色むらを消すことができる。

(5) 艶出し

艶出しは紙質保護と商品価値を高めることが、主たる目的であるが、紙や顔料の特殊な材質効果を失わないことが大切である。膠をうすめて使う無理のない艶がでた作品は鑑賞価値が高い。最近では艶ニスを使う作家が多くなったと聞く。

(6) 油

張り重ねが終り、芯を抜きとる時、芯と紙の分離を容易にするために油を塗布する。胡麻油・菜種油・リンシード（亜麻仁油）油等植物性油を使う。リンシード油は油絵の溶き油で、洋画材料店なら何処にもある。

(7) 芯材

○木型

張り子に使う型の大部分は木材である。他に粘土と練物とがある。

身近の木材を彫刻して、イメージにあう型を自作する。1個の型から同時に多くは作れないから、普通は数個の型を用意する。数個とは言いながら手作りであるから、全く同じものは作れない。しかし型が壊れるまでは（小刀で切り開くため、型につく傷が深くなり使えなくなる）同じ作品の製作が可能であるから、よく似た張り子が長年月作られることになる。豊川市のN家には市文化財に指定された木製の古い型が保存されている。初代の作と言われ約170年前のものと考えられる。

木型に使う木は、N家は桧・樟、福島県三春地方ではヤマヤナギを使う。その地方に自生する柳の一種らしく、彫り易い木だという。植物図鑑¹¹⁾に掲載されているヤマヤナギ（ヤナギ科）は別種と思われる。

○粘土型

粘土で形を作り和紙を張り澁を引いたもので、この種の型はN家ではあまり見られない。素焼きしたものもあり、これには和紙は張られていない。

○練物ほか

練物とは桐材のおが粉を膠で練り固めて型に押し、胡粉彩色をする技法である。吉良上野介公ゆかりの吉良の赤馬（郷土玩具）は練物風である。張り子の型も膠で練り固めてある。

木材パルプを金網上から流して、水分を切ったものを乾燥させるという方法で作られたものが文房具店にある。面芯（図1）と言って、お面作りの芯にする。これと類似の工程により、面・達磨・犬等の芯が作られている。量産化対策の新しい技法と思われる。

○教材化をめざす諸材料

相当大きな河原の石の外側に油粘土を盛り上げ、目的の型を作る。これを芯にして新聞紙と習字用紙を張り重ね大型の面を作る小学校¹²⁾がある。油粘土の節約にもなるユニークな発想であり、鐘馗面ほか創作面の各種を見学したが、力作ぞろいであった。

風船をふくらして、その上に紙片を張り重ねる方法は、風船そのものに親しみがあるが、休みなく張り続けると、風船の中の空気が冷えてしぼむことがある。その代案として考案したものが、ビニール袋に砂をつめて芯に使う方法である。これならばその心配がない。口元を麻紐でしばっておき、紙張りが終わったら、紐をゆるめて砂を流しとればよい。胴の部分を

麻紐できつくしばると、其処だけがへこんで凹凸のある芯ができる。しばりかたによって、種々な形を作り出すことが可能である。小刀不要の教材として幼稚園向きである。糲穀・かんな屑・のこぎり屑・まるめた新聞紙（図3）等もつめる材料になる。

野菜や果物も興味のある芯材である。トマトや桃を除きほとんどのものが見える。大根は図2の道具で少しづつかきとる。里芋・馬鈴薯・甘薯は個々に形が変わり楽しめる。（図4）

小枝の多い木の幹・切り株・流木等も良い芯材である。小枝を幹のつけねから切断すると、人形の顔や動物の頭となる。長く残して切ると、手足になる。

竹は有用な素材であったが、昨今樹脂製品に変わり、竹林も荒れ気味である。さくことは、相当な練習を積まないともつかしい。しかし切断と割ることは容易であるから、使いたい素材である。竹の節の両外側から切断すると、人や生物の胴体となる。小枝の節を中心に残して切断すれば関節のある手足となる。ふしくれだった節を先端にすると動物の角になる。幹と枝の接合部は特に大きなふくらみがあり、そのまま首人形となる。首人形には孟宗竹が良い。

その他、ざる・あき瓶・植木鉢等なんでも芯に使えるが、木材は刃こぼれがなく、刃物がすべらないから安心して使える。

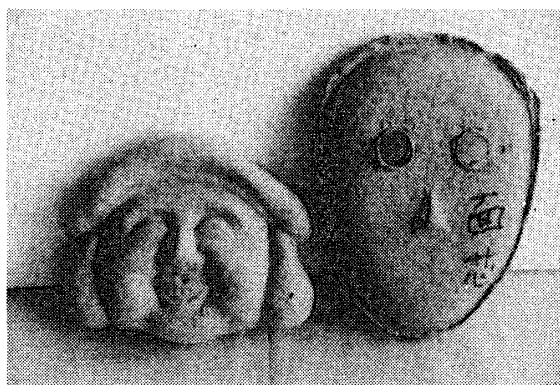


図1 張り子作家が使う大黒の芯 教材用の面芯

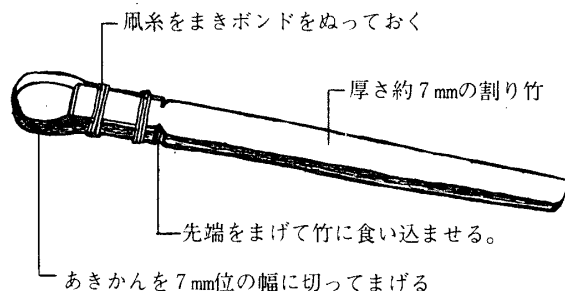


図2 手製かきべら



図3

左……ビニール袋に紙をまるめて入れて、芯とした。茶塵と色ロール紙を交互に10枚張り重ねた。
右……ビニール袋に砂を入れて、芯とした。茶塵と色ロール紙を交互に8枚張り重ねた。

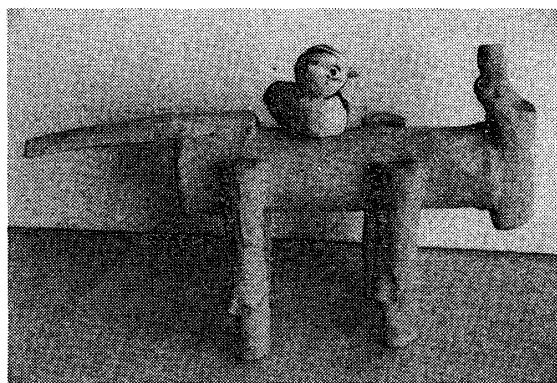


図4

里芋・くちばしはトイレットペーパーの紙粘土
節のある竹、ポスターカラー着色仕上げ

5. 張り子の製作過程

張り子の一般的な製作過程

(1) 芯材

簡単なものは一品作りとし、複雑なものは、2～3個の別作りとする。こうすれば芯の抜きとりが容易となる。また部品の接着位置、部品相互のバランス等の構想を具体的に進めることが容易になる。

(2) 油塗布

筆かぼろに油を含ませ、芯の全面にむらなく塗布する。ビニール芯は剝離容易であるから省略してよい。

(3) 水張り

芯と張り子とをはがし易くするために行なう。まず6×8cm程度に引きさいた紙片を水に浸し、紙と芯との間に空気が残らぬように張る。続いて次の紙を同様にして、稍重ねを多くして張りつなぐ。平面部は大きな紙でもよいが、曲面部はなるべく細長い紙を張る。紙の皺を少なくする目的である。砂を入れたビニール袋を芯にする場合は、口部を張り残すこと。

(4) 張り重ね

続いて1枚めの紙を張る。用紙を2種類準備した場合は、水張りに使用した紙とは別種を使う。紙片を糊の中に入れて全面につけ、水張りした紙の上に張る。両面に糊がついていることを確かめつつ張りつなぐ。いつでも指先や手の甲を使いおしつける気持ちを忘れぬこと。全面張り終れば、2枚めは水張りに使用した紙を張る。この場合既に全面に糊がついているから、張る紙にはつけない。糊のついた指先で紙をこするようにする。紙と指の両方に糊がついていると、紙が泳ぎ出して始末が悪い。2種類を交互に張れば、重ねた紙がどの位置でも同数であることがわかる。

このようにして6～8枚を重ね、最後は習字用紙を3枚張る。大作になると習字用紙を別として10枚以上を張りたい。この事例は茶塵と色ロール紙及び習字用紙を使用した。また大作とはバレーボール大以上と考えた。

(5) 乾燥

夏季は糊の腐敗が心配だから、天日にあてて早く乾燥させる。板の上など接触面は容易に乾燥しないから、時々上下を入れかえる。これは粘土細工の乾燥と同様である。

(6) 芯抜きと接合

完全に乾燥したら芯を抜きとる。張り抜きの語源はこの作業からきている。まず鉛筆で立体の稜線に沿って、切断予定線を書く。左右に切り開き、中の芯が抜きとれるかどうかの見通しがつけば、いよいよ小刀を入れる。小刀は親指と人指し指で軽くにぎり、中指を張り子につけ、ゆっくり軽く切っていく。決して一度に切ってはならない。何度も繰り返していると、刃先が芯までとどくから次に進む。左手に張り子を持ち、右手で小刀を使うと、刃先に左手がのびることが多い。これが怪我の原因となる。絶対に刃の方向に指がむかない工夫をする。切ることは、出来れば一部を残したい。芯を抜いてからの接合に都合がよい。芯を抜き取ったら、左手に張り子を持ち接合部を合せ、右手で糊をつけた短冊形の紙を張る。2枚の重ねでよい。この作業は抜きとり直後に行なう、抜きとりがむつかしいものは3分割して切り開く。これで張り子は完成である。あとは乾燥し着色して終る。

(7) その他のこと

抜きとり後、長く放置すると、切り口が合わなくなる。また厚紙で耳などをつける時は、裏面からセルロイド片や竹ひごでそえ木をする。胴体全面を毛糸で覆い被せたり、色紙を張るなど、材質感を失うことはやらない。胴の中に豆や小石を入れると軽快な音がする。

ま と め

張り子は、日本の伝統に支えられた玩具である。種類も多く、用途もさまざまであるが、庶民の玩具である。紙を張り重ねるという単純な作業は、飽きやすく持久力がなくては完成までに至らない。またさまざまな材料を使い、年齢差に応じた工作も可能である。この意義ある伝統的技法を今日の美術教育に生かし、より格調高い日本の心を育てたいと願うものである。

この研究のため多大な御援助を賜った下記の方々に深く感謝を申し上げる。

福島県会津若松市 五十嵐新一：愛知県豊橋市 豊田里美：愛知県豊川市 内藤武人
静岡県浜松市 二橋加代子：福島県郡山市 橋本廣司（敬称略）

注

- 1) 中川喜雲（1555弘治1年～1625寛永2年）室町末期の文人、広島の人、のち京都に住す。北林季吟の門人にて山桜子と号す。案内者 京童跡追 鎌倉物語等の著あり。寛永2年10月3日歿 年70（日本人名大辞典）
- 2) はり貫とは、張り子のこと。野郎は、前髪をそった若者又若い男
- 3) 少女の形に作った人形
- 4) 福島県郡山市西田町高柴 現在この地にデコ屋敷と称し、5軒の作家集落がある。
- 5) ベことは東北地方で牛のこと。全身を赤一色で塗り、首を振る。作者によって多少のデザイン差があるが、胴に白い縁取りをし黒く塗られている図柄がある。病気および疱瘡除けの呪いとされたと思われる。
- 6) 三河一宮砥鹿神社は大己貴命（大国さま）を祀る旧国幣小社、里宮本社と本宮山奥宮の二社がある。交通安全、家運隆昌、諸厄難消滅の御神徳ありとされる。所在地宝飯郡一宮町
- 7) 江戸時代、安政・万延（1854～61）年間の飢饉で養蚕が不振となり、加えて悪病が流行してこの一帯が苦しんださい、農民の一人が菟足神社の社宝の古鐘膺面をかぶり、悪魔退散、五穀豊穡を祈って村内を駆け回ったところ、奇跡があったことから、面守りの風俗が生まれたと言う。（愛知点描15話、昭和56年3月 愛知県広報課）
- 8) 亀井 鑛：東海の郷土玩具、124頁、豊橋の赤天神（1979）
- 9) 北村四郎・村田 源：原色日本植物図鑑、木本編(1)358頁（1975）
- 10) 牧野富太郎：牧野新日本植物図鑑、295頁（1964）
- 11) 岡本省吾：原色日本樹木図鑑、34頁（1931）
- 12) 宝飯郡小坂井町立小坂井東小学校